

「三位一体の聖エリザベトとともに歩む」

(2) 神聖に呼ばれる



兄弟姉妹の皆さま

夏の始まりを感じる頃となってまいりました。今年は5月のうちに真夏日を記録しましたが、お元気でおすごしですか？

5月はマリア様の月です。聖母マリアと三位一体の聖エリサベトと共に5月を最後まで歩みましょう。そして、6月は、三位一体の主日(6月4日)、キリストの聖体(6月11日)、イエスのみ心(6月16日)、洗礼者聖ヨハネの誕生(6月24日)、聖ペトロ聖パウロ使徒(6月29日)と、カトリック典礼暦に定められた祭日があります。当教会では今年もキリストの聖体の祭日に子供たちの初聖体を行います。それは喜ばしい瞬間です。

神聖に呼ばれる

第2バチカン公会議では、次のように述べて、すべてのキリスト者の召命の本質を定義しました。

「人間の尊厳の大きな意味は、神との交わりを始めるようにというその呼びかけにあります。当初から、人間は神との面談に招待されてきました。なぜなら、人は神によって創造され、神の愛のおかげで生き続けているからです。」(Gaudium et Spes 19)

神との一致で最高潮に達する聖性への呼びかけと愛を、分離することはできません。神聖の本質は、愛と愛の結合を達成することです。しかし、「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して」(1ヨハネ4:10) くださるのです。さらに、ヨハネは、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と述べました。(ヨハネ3:16) 聖パウロは「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている(からです。)」と言っています。(ローマ5:5)

ですから、愛の動きは最初に神から神の子イエスを通して来ます。そしてすべてのキリスト者は神の愛のその流れに入るように呼ばれています。

エリザベトはこの崇高な召命にとっても魅了されていたので、最初から「人が神との交わりを始める」という神の計画の中にいました。イエス・キリストを通して、神は私たちをご自分の息子と娘にします。「イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。」(参照エフェソ1:5) エリザベトによれば、これは私たちを「神が彼のイメージと似た姿で私たちを創造した栄光の深い谷」に導きます。

エリザベトは、ローマ8:28-30のパウロの言葉を、各個人は目的地の成就または神の選択の成

就にすぎないと呼びかけていると理解しました。「彼が最初から任命した者」(ローマ8:30a)。

私たちは彼らの一部ではありませんか？　そうです、私たちは彼らの一部に加えられています。私たちは洗礼によって神の所有物になりました。神は彼らを呼ぶ、これが聖パウロの言葉の意味するところです。私たちは確かに聖霊の印を受け取るようによばれています。

さらに、「私たちは神の恵みの中でどれほど豊かですか」とエリザベトは言いました。

「私たちは神の子供になるための神の養子縁組を受ける運命にあります。そうすれば、私たちは神の栄光の富の相続人になります！なぜなら、神は私たちが神の前で非難されないように、天地創造の前に私たちを選んだからです。」(参照：エフェソ1:4)

私たちは人間の本性において、神のイメージを共有する運命にあります。これは人間の本質を変えたり破壊したりすることではなく、それを強化します。聖アウグスティヌスが言ったように、「恵みは自然を破壊するのではなく、完璧にする。」

しかし、エリザベトにとって、この自然の高揚は闘争をまったく否定するものではありません。エリザベトは十字架の聖ヨハネの弟子であり、神との結合を達成するためには空虚と自己否定の中を歩かなければならないと教えたことを思い出してください。

エリザベトが書いたように、

「神は前もって知っておられた者たちを御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。」(ローマ8:29)　これが、私が自分自身に植え付けようとしていることです。愛のために十字架につけられた私の愛する主と似ていて、同一であることです！そうしてはじめて、私は神の栄光を賛美する(ラウデム・グロリアエ)という義務を果たすことができます。

または1つの手紙では、

私は他に何も知りません、そして確かに私はただ何も知りたくありません。

「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら」(フィリ3:10)、キリストの愛に生きます。キリストは彼の愛のために十字架につけられました。もし私が本当にこの神聖な模範のようになれば、私が完全に彼と彼の内に住んでいたなら、私は永遠の召命を果たします。神が彼の中で私を選んだ(参照：エフェソ1:4)のです。最初から私は、神が永遠に意図された人のようであり続け、三位一体の神との親密な関係に完全に没頭するとき、私も神の栄光を際限なくほめたたえます。

神の限りない愛によって生きる私達は、神の愛から離れることはできないのではないのでしょうか。神の愛に生き、神の愛の中に生き続けることが出来ますように進みましょう。

2023年5月6日

カトリック上野毛教会 主任司祭

ペトルス・ウィリー・ツバ・ドイ O.C.D.